

(様式1)

県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

学校名 鳥取商業高等学校

重点項目	専門人材育成	提出日	平成31年1月29日
------	--------	-----	------------

1 学校目標
地域の産業経済界をリードし、活躍する人物を育成する ※詳細は別紙「鳥商教育のめざす姿」を参照
2 重点項目に係る目標
(1) 鳥商生としての自覚と誇りを持ち、自ら考え、判断し、行動できる力をつける。 (2) 望ましい職業観・勤労観を身につけ、進路実現に向けて努力する。 (3) ビジネス社会及びグローバル社会に必要な力を身につける <数値目標> (1) <u>就職内定率、進学合格率ともに100%を継続</u> - 就職先は県内東部地区企業、事業所が96%以上。金融機関等本校指定の求人も数多くある。進学について、習得した専門知識をより深め実社会で役立てようと毎年国公立大学、難関・有名私立大学の経済、経営系学部・学科に複数が進学している。またビジネス教育で培ったコミュニケーション力を活かして医療・看護系、幼児教育系学校への進学者も多数ある。 (2) <u>全商検定1級3種目以上取得者50%以上(3年卒業時)</u> ※平成24年度37%から徐々に上昇し平成28年度は53%となったが平成29年度は42%にとどまった。 - 全商(全国商業高等学校協会)が主催する検定試験(簿記、会計、情報、英語、ビジネス文書など全9種目)の1級取得に向けた学習の成果指標。検定合格にあたっては各専門領域の知識だけでなく文章読解力、思考力、計算力、語学力など普通教科の学習で習得する力も要求される。 (3) <u>鳥商デパート売上げ1,200万円以上、来場者数10,000人以上</u> - 鳥商デパートは生徒自身が企画、仕入れ、販売、決算のすべてを行う鳥商教育の集大成としての位置付け。学校祭で楽しむ模擬店ではなくビジネスとしての販売活動であり平成31年には第26回を迎える。第25回は天候にも恵まれ売り上げ、来場者数とも目標値を超えそれぞれ1,366万円、10,336人であった。地域の皆様からの信頼と信用がなければ目標を達成することは不可能であり鳥商教育全体が問われる事業と考えている。運営主体は3年生であるが1、2年生も販売補助、環境整備、案内、駐車誘導などによりまごころをもってお客様をお迎えする全校挙げての事業。また近隣保育所園児による演技披露、湖山西小学校5年生との共同出店、近隣中学校生徒(希望者)の販売体験活動も実施している。

3 事業計画（事業名、事業概要）

【高等学校課事業】

事業名：未来を拓く学力向上事業（チャレンジサポート）

事業概要：

1 鳥取県商業教育フォーラム

※平成31年度より隔年開催とするため次回開催は2020年度だが重点校事業として位置づけているため記載する。

- (1) 実施時期：2020年7月上旬
- (2) 対象：全校生徒及び県外商業高等学校3校の代表生徒
- (3) 目的：①全国の商業高等学校に学ぶ生徒との交流をとおして、それぞれの学校の特色や商業教育に対する思いを共有し、商業高校生としての自信と誇りを持たせるとともに、相互研鑽に資する姿勢を身に付ける。
②発表やシンポジウムをとおして生徒のプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を育成する。
- (4) 内容：本校及び県外商業高等学校3校の代表生徒による各校学校紹介、特色ある取組の発表と商業教育に関するシンポジウムを行う。県外からは商業教育（検定・資格取得、就職・進学実績など）及び体育、文化活動等において全国上位の成果、成績を上げている商業高等学校を招いている。平成30年度は茨城県立水戸商業高等学校、静岡県立浜松商業高等学校、宮崎県立宮崎商業高等学校の3校を招いた。

【独自事業】

事業名：商業教育推進事業

事業概要：

1 1年ビジネス基礎研修

- (1) 実施時期：4月上旬
- (2) 対象：1年生全員
- (3) 目的：本校で学ぶ目的や商業教育への理解を深め、2年次よりの類型選択（商業・会計・情報・デザイン）をとおして3年間を見通した学習計画や進路設計を行う動機づけとする。また高校卒業後の社会生活を送る上で当事者としての意識を高め、社会人としてまた企業人として要求されるビジネスマナー、礼法を習得する。
- (4) 内容：①商業学科主任による商業科の学習内容紹介及び類型説明。
②外部講師によるビジネスマナー、礼法についての講演と実技指導。

2 1年ビジネス体験実習

- (1) 実施時期：10月9日（水）～11日（金）
- (2) 対象：1年生全員

(様式1)

- (3) 目的：①ビジネス基礎研修及びビジネス基礎の授業で学んだ知識や習得したビジネスマナー、接客の基本を企業、事業所で活用、実践しさらに向上させる。
- ②この体験実習をとおして今後学ぶべき点を振り返り、「鳥商デパート」の企画・運営に必要な基礎力を身につける。
- ③社会や職場の実態を理解し、望ましい職業観・勤労観を身につけ、主体的に行動する態度を養う。
- (4) 内容：鳥取県東部地区の企業、事業所約70箇所における3日間にわたるインターンシップ。単なる職業体験ではなく各実習先で即戦力として活躍することを生徒に求めている。学びを社会と関わる体験活動で実践、応用することでより定着させ深める鳥商教育の中心事業のひとつ。外部講師を招聘しての礼法、接遇指導も事前に行う。

3 2年研修旅行

- (1) 実施時期：10月9日(水)～11日(金)
- (2) 対象：2年生全員
- (3) 目的：①産業界やビジネスの世界を実際に見聞し、鳥商で学んだ「生産、流通、販売」の一連の知識と体験を結びつける。
- ②研修を機会に自身の職業観・勤労観を見直し、自己のキャリアプログラムを具体的に構想できるようにする。
- ③現在の進路志望が自身の適切な選択であるか振り返るとともに、実現するには今後何が必要かを考える機会とする。
- (4) 内容：東京都内のビジネス現場(上場企業他)と各種上級学校を訪問し研修する。訪問先企業は日本有数の企業等とし、最先端の施設の見学やビジネスの最前線が体験できるようにしている。また各種上級学校は生徒の志望に沿って選択し決定する。これまでの訪問先企業としてはヤマトホールディングス、ローソン、ディー・エヌ・エー、博報堂、ピクシブ、コロプラ、東急モールズ109事業部、商船三井、SMB C日興証券などがある。

4 鳥商デパート(鳥商教育の集大成)

- (1) 実施時期：11月30日(土)、12月1日(日)
- (2) 対象：全学年生徒(運営主体は3年生全員)
- (3) 目的：①3年間を通じた一連の学習成果を発表する機会を創出する。
- ②売上を増やすための方策について生徒同士が意見を交換し、アイデアを出しあい協力することにより企画力・実行力・協調性を養う。
- ③県民に広く本校の活動や学習内容、生徒の成長を認知してもらう。
- ④県内高校はもとより全国の商業高校との連携を進めるほか、保育所や小学校等との校種間連携も行う。

(様式1)

- (4) 内容：本校施設（大体育館、小体育館、屋外施設）を会場に青果、精肉、鮮魚、乾物、学校特産品、ベーカリー、和洋菓子など20の店舗を設営し、企画、仕入れ、販売、決算の一連の販売活動全てを生徒が行う鳥商教育の集大成。幅広い年齢層からの来場を目指し、各種ステージイベントの企画、SNSを介しての広報活動、シャトルバスの運行なども生徒経営委員会が企画し実行する。運営主体は3年生だが、1，2年生も来場されるお客様に気持ちよく買い物していただけるよう販売補助、環境整備、案内、駐車誘導などの裏方としてデパートを支えている。

5 企業とのコラボによる商品開発（地元企業との連携）

- (1) 実施時期：通年
- (2) 対象：商業経済研究部
- (3) 目的：①地域や企業との連携を図り、生徒の主體的な企画推進や活動創成をとおりして探究心、創造力、実践力を育成する。
②学校の取り組みを地域社会に情報発信し、学校及び地域の活性化を担う。
③地域とともに歩む地域共生プロジェクトとして位置づけ、未来に向けた学びとして、生徒の人的成長につなげる。
- (4) 内容：①菌蕈研究所、菌興椎茸協同組合等と連携しながら県産原木しいたけを素材としたレシピの開発。
②「きのこ王国鳥取県」の広報・普及活動を地域や生産者と連携しながら進める。
③地産地消の推進を図るとともに、企業とのコラボレーション（協働）により、しいたけや地元の素材を第一に、県産野菜を使った新商品の開発や弁当作りを行う。
④各種イベントや大会、鳥商デパート等に向けての企画立案や販売活動を行う。
※主な開発商品：しいたけバーガー、原木しいたけ丼、原木しいたけカレー、しいたけ弁当、しいたけうどん、炊き込みご飯、スープ

※枚数任意

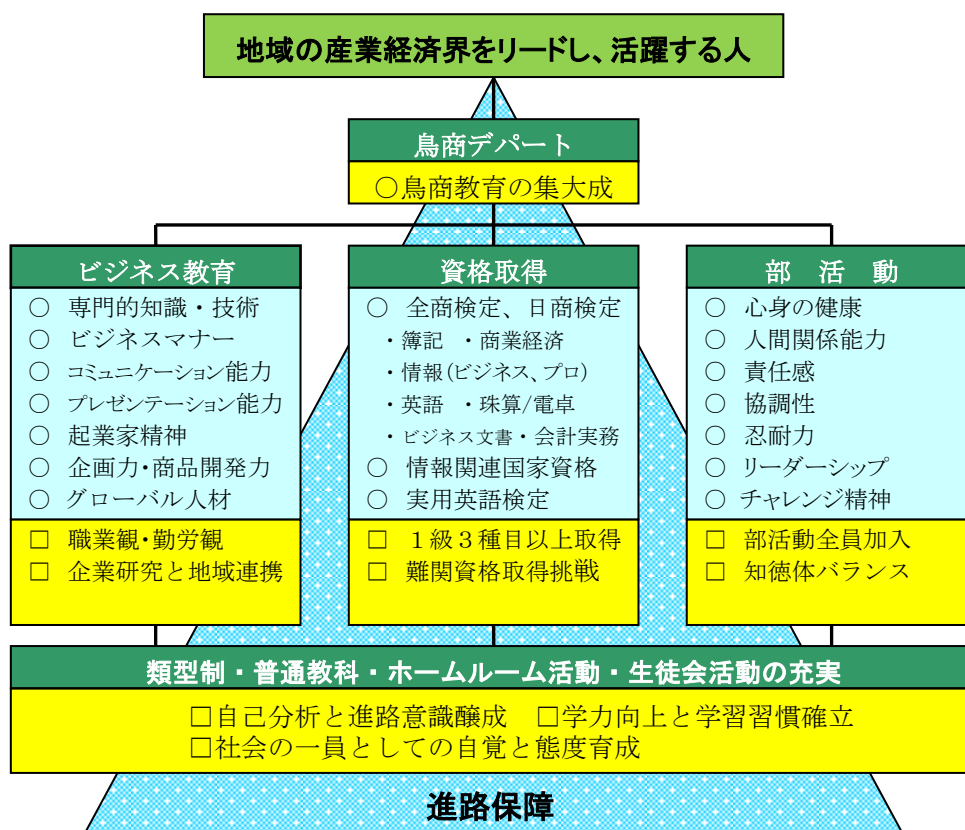
鳥商教育のめざす姿

1 めざす人物像・・・地域の産業経済界をリードし、活躍する人

(職場の人に信頼され、情熱を持って仕事に励む人)

- ① 何事にも前向きに考え、嫌なことでも、みんなのため、自分の成長のためと考え実践する人
- ② 周りの人への配慮ができ、自分の考えをはっきり述べるが、他人の意見も尊重し、決まった目標に向かって協力ができる人
- ③ 現状を当たり前と思わず、リーダーシップを発揮して、より良くするための計画やアイデアを提案し、実行できる人

2 鳥商教育のイメージ図



3 3年間で身につけたいもの

(1) 第1学年

- ① 笑顔の挨拶、正しい制服の着こなし、丁寧な言葉遣い
- ② 自己表現力(話す力、聴く力、書く力、読む力)
- ③ 人や社会のために働く力

(2) 第2学年

- ① お客様や外来者に「まごころ」をもって接する力
- ② ビジネスマナー、周りの人への配慮や気配りができる力
- ③ 起業家精神(企業理念)、コミュニケーション能力、

(3) 第3学年

- ① 誠実で責任ある言動(信頼・信用される人)
- ② ビジネス実践力(即戦力として必要な力や心構え)
- ③ チャレンジ精神(企画する力、商品開発力、起業する力)